

## 青海マイコミ平にて

『眼れないなあ占私は行きの列車から見た暗闇の世界を見て言つた。まっ黒な窓が、朝日でんだけだし、まぶしき光が私の目の中にとびこんできた。魚川だ。睡眠不足の体を役場のジープで、でこぼこ道を荷物とりしょくたに運ばれる。でこトンネルをぬけろと、やはりでこぼこ道だった。

B.C.までもう少しといふところで、土砂が林道をふさいではいたが、林道は、ほとんどB.C.近くまでつりていふ。奥大坂横断のためにでもつくられただけではないかといふさっかくにおちいふ。二の林道がどこまでつづくのかは知らないが、ここには、日本がほころ壁内洞窟があり、そこには、日本がほころ壁内洞窟があり、これからの大形レジャーハウスがつくりて巨大企業がここをほっておくはずが代に對して、観光開発の波がマイコミ平に押し寄せてくる日もどう遠く将来ではないだろう。

いや、観光開発よりも資源開発の方が先にあるかもしれない。合宿中にも、中年男2人が木をさがしてるとか言って、マイコミ件近をうろついていた。パールアの原料にするようだ。日本独占資本か、開発の名のもとにマイコミ平をくりつぶす日もどうとおり日のことではないのではないかとふと私の頭をかすめた。

1日目は、荷物運びで日がくれて2日目の朝がやってきた。ぬむい目をこすりながら怠慢におきる。食事の方は、大嶋君が権力をにぎっているので、私はその手伝いのみだった。彼ばかりが料理するのではないかと思ふりうるが、私も彼から料理講習などを受けようと思つてゐります。

今日は、新洞の調査だ。キスリングをかついでのアッショコギや汲のぼり、私などがゲリラに

でもなれば、活躍するのではなかろうかと歩きながらふと思つた。すべての色彩が、緑色に吸されているかのように緑一色だ。歩いつていろいろとときは私の頭の回りをずっとまわって下さつていいました。すわると股のところにナゼかよつてのだが、たまたま失敗して、大轟などこを打つてしまふのだ。まったくまいまいヤツだ。とにかくアブ君ぐらりテクニックだけはなんでもあるからアブ君ぐらりありがたい文明の力でやっつけられるだろ。儲いもんだよ人間は、アブとは頭のできがちがうんだから。

昼ごろ洞窟に着く。始めての洞窟もありだ。このあまりにも感動と興奮に満ちた時の感想を書くと次のようだ。まず、ワイバシゴで下っていく。これはトレーニングがけないせいもあるが、どうもうまく使えないのだ。そのため不用な力まで使ってしまう。腕がひじょうにだるくなつたとき下についた。ひどくドロドロしたせまいところだった。しかし下から上の洞口付近を見上げると、灰色と青色にまじった岩が、私におあいかぶさつてくるようだ。それを上からさしこむ光がさえているかのようだ。洞窟の中へ消えていったかと思うと底についた。がっかり、私は、闇の中へつづいていく洞窟がずっとつづきてひとつすると福来口までつづいていふのではないかといふ感動と興奮による強烈な刺激が私の心をおどらせたのだが、残念ながらだめだった。測量などをして、ほんじやま帰ろうかとしていたとき、大嶋君が、洞窟らしきものがつづいていふのを見た。ただちにハンマーでもって入口にある岩をめったうちにしてびけるとやはりつづいていた。またも、あの感動がこみ上げてくるのだったが、

ここも、せまくいきにもくづれこきとうな岩  
で、できている底のある洞窟だった。アリの巣のような洞窟にもぐつていいくことは危険でありまたひじょうにしんどいものだ。その上、まったくやみでせまくうすぎたない岩が、私の体にあおいかぶさつてくるようだ。何があもくるしい気分になる。未知へのあこがれの心は、わいてくるのだが、私の怠惰な心が、私の探求心をなぐさめてしまうようだ。そんな時私は私自身にあわれみを感じる。2日目の夜がきて3日日の朝がきた。夜から石けり洞調査。そして雨。みんなすずぶぬれになり帰る。これから終りの日までうつとうしい天気がつづいた。おかげで私の作業服はどうまみれ。雨にぬれブッスユのにおいがしみこんだまつたく無駄なものである。とくに私はよくすべった。すべてすべってすべりまくった。この哀私は足腰が弱いのに気づくもときたえなければ。そしてまた3日目の夜がきて4日日の朝がきた。今日は朝から雨がしとし。雨におひえた私たちは、テントの中でなんじやかんじやしていよいようちに4日目の夜がきて、5, 6をオミットして7日日の朝がきた。穴見山からの水準測量のためハ木さんと登る。水準測量器片手にもつてのブッスユこぎにはまりった。片手で枝をのけると、足がひっかかり、足を枝からのけると顔に枝があたり私はもういらしてきただ。それにアブ君がごといぬいに私の頭の回りをずっとつりてくる。ますますりらいらしてきただ。もっと冷静にやらなければと思うのだが、おもひどうりに歩けないと腹がたってく。まだなれてないのだこうからちかむ。また方向おんちぎみのハ木さんが穴見山を見失なつため、それに私も方

向おんちなので、下山。だめな2人。  
そして7日目の夜がきて8日日の朝がきた。  
銀鳳洞までの測量の手伝い。私にとつては、奥にめんどくさいものだつた。私はただじつとがまんの子であった。  
最後の日は、またもハ木さんと踏査。3, 4の新洞をクマに会わないかと私はおびえながら帰つてくる。そのうちの1つは、かなり大きなものが洞口付近には、雪がたまっていた。洞口まではほぼ垂直にちかい岩場なので、私の技術ではとてもあり辛のでまた時間もなかつたのでくわしいことは来年にまつそうだ。来年あとどこにでれが行くのだろう。さびしい話。もし私が11くならはたして1日でたどりつけただろか。たよりない話。もっと動物的感覚と地図の見方を養わねば。  
とにかく、10日間という短かり期間ではあつたがひざに石があたるような事故もなく無事に終わった。当初の計画の坂大との合同隊も、合同隊を組む以前に話し合わねばならぬことを出発の日を目前になつて問題になろうというおかしなことになつて流れてしまつたけれど、これを教訓にして今度はうまくいくと思うのだが洞窟班のメンバーがひじょうにさびしいのでこれから前途はきびしいと思う。  
感動と興奮による始めての夏合宿の感想は二つくらい。おわり

(西口)★

★ P.S ★

最後にこの報告書および今合宿にあつて色々御厚意を賜わった関係各位に対し感謝の意を表明する次第である。

## ★撮影についての反省・感想★

洞窟の写真をとるのは何分はじめてなのでどれかどうか不安だった。洞窟内は、まっくらなのでファインダーをのぞいてピントを合わせ、キヨリを決めることができないので、適当にキヨリをきめて露出をあわしたため写っていけるかどうか自信がなかったが、できた写真をあとで見るとうまくこれでいいのにやれながら満足した。色もきれいにでていた。ただ、ファインダーをのぞいてもまっくらなので、どういうアングルでとればよいか見当がつかないには、困った。やはりアングルの方がきまつになかったようだ。洞窟内は、温度差もあまりなく流水もなかったので、さほど苦労はなかつたが、カメラにドロがつくのが心配だった。

踏査における撮影については、地形をあまりよく理解していなかったため、田中さんなどに指示してみるとどう状態だった。  
(もらって)

またASA200のところをASA100でとるとどう初歩的なミスをおかしてしまったため、黒白写真で一部コントラストのきついものもあった。あれなどは半切か全紙ぐらいにひきのばすと「すばらしい」と思うのだが。私としてはもう少し行動記録などをとりたかったのだが、雨も多かったため、あまりとれなかつたのが残念だ。今後私は8ミリなどによる撮影をやりたいと思つていい。今T.V.でやつていい「すばらしい世界旅行」とか「驚異の世界」ぐらいいわれれば「すばらしい」と思う。やはり生きた活動は、あとになつても生きしたものとして我々に感動を与えてくればならない。そのためには映像による記録などに力を入れようと思つていい(したい)あります。

〈西口〉\*

## 世界の洞窟と青海洞窟

### 青海洞窟(深度)

千里洞(405m)

白蓮洞(355m)

奴奈川洞(335m)

銀鳳洞(330m)

### 世界の堅穴洞窟 BEST. 10. (深度)

1. プロヴェティナ (ギリシア) 1372m.

2. グーフル・ド・ラ・ピエール・サン・マルタン (フランス) 1310.6m

3. グーフル・ベルジエ (フランス) 1143m

4. スパルグ・デ・ラ・フレタ (イタリー・アルプス) 885.8m

5. ヘーロッホ (スイス) 739.8m

6. グリューバー ホーン (オーストリア) 709m

7. スニーリナ (ポーランド) 639.8m

8. グーフル・ド・ファウル (レバノン) 621.8m

9. アビッソ・ヴェレオ (エゴスラビア) 539.5m

10. プロヴェティナ (ギリシア) 396m